

氏名 庄 司 孝

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 4 9 5 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和47年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学 位 論 文 題 目 子宮頸癌旁結合組織の病理組織学的研究

論 文 審 査 委 員 教授 小 川 勝 士 教授 妹尾左知丸 教授 佐 藤 二 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

岡大婦人科に於いて広汎手術を行った子宮頸癌 131 例についてその旁結合組織を病理組織学的に検索し、旁結合組織臨床的触診所見の本態、旁結合組織に於ける癌浸潤、原発巣の CPL 分題及び原発巣内並に原発周辺の細胞反応と旁結合組織内癌浸潤等の問題について検索した。

- 1) 子宮頸癌旁結合組織に於いては、触診上殆んど浸潤を認めないもので 26.8%，中等度 47.4%，高度のもので 65.5%と触診所見が高度になる程病理組織学的癌浸潤が高度に認められる。
- 2) 旁結合組織内血管の内膜肥厚、内腔閉塞、弾性様多層化等の病変と触診所見は深い関係を示す。結合組織増殖、血管の硬化性病変更に旁結合組織の癒着化によるその短縮と緊張、これら三点が旁結合組織の臨床的浸潤の本態である。
- 3) 癌浸潤を有する旁結合組織を調べると子宮壁から癌浸潤先端迄の距離の分布は臨床的触診所見と関係なくほぼ一定しておる。
- 4) 旁結合組織内癌巣の存在場所は大部分が脂肪組織中に孤立して存在するもので動静脉、リンパ管等に存在するものは極くわずかである。
- 5) 原発巣の CPL 分類では CP 型に較べ L 型では旁結合組織癌浸潤例が多くリンパ節転移例は更に著明に多い。原発巣内及びその周辺の小円形細胞浸潤の強いものでは旁結合組織内癌浸潤が少い傾向があるがリンパ節転移とその様な細胞浸潤とは関係が認められない。

(備考 昭和45年10月 日本癌治療学会誌 第5巻, 第3号に掲載)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、子宮頸癌に於ける旁結合組織内癌浸潤の態度を病理組織学的に検索し、触診所見、原発癌の CPL 分類、炎症性防衛反応との関係を追究したもので、子宮頸癌の診断と処置に有意義な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。